

# 京都建築賞

## 結果発表

■主催 (一社)京都府建築士会

■後援 京都市・宇治市

■趣旨目的

京都府建築士会創立60周年を記念して、本賞を創設。本会会員による、京都の歴史的文脈を踏まえつつ創造性の高い建築作品を表彰し、その活動および業績を広く社会に伝えることにより、京都および建築の継承・発展に資することを目的とする。

■応募作品数 13作品 (募集期間 平成27年2月1日～2月14日)

■審査委員会

委員長 岸 和郎 (京都大学大学院教授)

委員 櫻井 潔 (㈱櫻井潔建築設計事務所・ETHNOS主宰)

辻村 久信 (辻村久信デザイン事務所+㈱ムーンバ  
ランス代表 京都造形芸術大学教授)

中村 義明 (中村外二工務店代表)

文山 達昭 (京都市)

堀木エリ子 (㈱堀木エリ子&アソシエイツ代表)

## 2015年 京都建築賞 審査総評

審査委員長 岸 和郎

京都府建築士会によって創設された賞である京都建築賞の本年度は3年目になります。その審査の経過についてご報告いたします。

資料の提出期限である2月14日時点で応募作品数は13点であり、残念ながら昨年度の12作品と同程度ということになりました。本年度から自薦だけでなく他薦でも応募可とし、応募しやすさを図ったのですが結果には結びつきませんでした。建築士会による様々な事前確認のプロセスを経た後、3月23日に一次審査委員会が開催されました。ここでは書類審査により現地審査作品を選ぶことが目的であり、様々な議論の結果、「Belly House」「方形ハウス」「三井ガーデンホテル京都新町別邸」「リッツカールトン京都」「簠」「華頂短期大学附属幼稚園」の5作品を現地審査作品として決定しました。

引き続き5月11日には、上記5作品の現地審査を行い、それぞれのクライアント、そして設計者のご協力により無事に審査を終了することができました。現地審査終了後、ただちに最終審査委員会を開催し、上記5作品について以下の結論を得ました。まず、現地審査を行った作品5点とも、十分に評価すべき水準にあることを審査員全員で確認し、引き続き賞の議論に入りました。

その結果、「リッツカールトン京都」を最優秀賞、「Belly House」を優秀賞、「方形ハウス」、「簠」の2作品を奨励賞とすることに決定しました。

昨年度には本賞が京都建築賞であることの位置付けが議論され、最優秀賞については「京都」性の表現が十全に機能していること、その点を審査のクライテリアとするべきであることという点を審査員全員で確認しました。本年度の最優秀賞とした「リッツカールトン京都」については、その外観について京都性の表現が少々エキゾティシズムに接近し過ぎていたのではないかとこの意見は出たものの、一方その都市ホテルとしての空間の密度の高さを評価したいという意見で一致し、最優秀賞に値する作品であると審査員全員の一致した結論を得ました。

優秀賞の「Belly House」については、厳しい景観規制を受けている場所での新しい屋根の表現、この作品が近隣の景観を積極的に変化させている現状などから都市景観的観点を含めて優秀賞に値するとの一致した結論を得、また奨励賞の「方形ハウス」についてはその清々しい表現、「簠」についてはファサードの竹のダブルグリッドの繊細さと光の演出を評価し、奨励賞に推挙することとなりました。

以上で京都建築賞の審査過程とその結果の報告といたしますが、次年度からは賞の応募形式の変更を含めて、新しい時代に即した賞へと発展したいという意見が出、審査を担当する委員としては次年度からの京都建築賞のさらなる展開を愉しみにしながら、次年度以降の応募作品への期待をここに記して、ひとまず本年度の審査報告としたいと思います。

### 第3回 京都建築賞 応募作品一覧

| 作 品 名                       | 設 計 者               | 会 社 名             |
|-----------------------------|---------------------|-------------------|
| Belly House                 | 畑 友洋                | 畑友洋建築設計事務所        |
| 三井ガーデンホテル京都新町 別邸            | 小林浩明・石川雅英・木戸貴博      | ㈱竹中工務店大阪本店設計部     |
| 外一秀装苑ビル                     | 森田昌宏・興津俊宏           | ㈱竹中工務店            |
| 京湯本 ハトヤ瑞鳳閣                  | 西村 敬・松本伸洋・高橋裕美      | ㈱竹中工務店 大阪一級建築士事務所 |
| 簠                           | 森田一弥                | 森田一弥建築設計事務所       |
| 京都嵐山温泉 花伝抄 京都嵐山温泉 湯浴み処 風風の湯 | 齋藤篤史・吉田茂博・白井大輔・濱井伸吉 | ㈱東洋設計事務所          |
| 華頂大学・華頂短期大学・華頂短期大学 付属幼稚園    | 赤木 隆                | ㈱日建設計             |
| ザ・リッツ・カールトン京都               | 大谷弘明                | ㈱日建設計             |
| 借家生活1.2.3.4・・・              | 駒井貞治                | 駒井貞治の事務所          |
| 高野川のいえ                      | 杉本考次                | 一級建築士事務所 ネストデザイン  |
| 方形ハウス                       | 坂井隆夫                | 坂井隆夫建築設計事務所       |
| Hakko Kyoto                 | 森下 修                | ㈱森下建築総研           |
| DomaineT                    | 中西義照                | 一級建築士 FORMA 建築研究室 |

## 【講評】

京都の歴史的文脈を踏まえつつ  
創造性の高い作品

鴨川を眼下に東山を望む洛中唯一のロケーションにリッツカールトンホテル京都は建つ。外観は、日本の伝統とモダンな欧米様式の融合を図り、町並みにも調和したデザインでホテルとしては低く抑えられた薄い軒先を南北に広げている。

大きな傘型照明が印象的な内部空間は、手仕事である伝統工芸とモダンデザインが上質に融合した内装材や調度品によって構成され、明と暗を巧みに生がした町家建築を連想させる情緒を持っている。また、レストランなどのパブリックスペースでは、旧藤田男爵の別邸「夷川邸」を移築したり、鴨川側にしつらえた大きな滝には旧ホテルフジタ京都で使われていた滝石を再利用するなど、歴史に対するリスペクトを感じると共に独自の物語性を演出している。

客室は全134室のうち、スイートが17室。パブリックスペースの大半を地下にレイアウトする事で、客室からの眺望を確保し尚且つ低層ゆえに鴨川のせせらぎを近くで感じられる。象徴的な5階の「ガーデンテラススイート」はプライベートの日本庭園が備えられ、旅館の様な風情で天候にかかわらず、どの部屋から東山と庭園が望める設計になっている。

京都建築、いわゆる「京都らしい建築」は、歴史的には大陸の文化を起点に持ち、土着の自然風土による独自の生活文化との折衷によって洗練され、進化してきたものである。しかし、その歴史的視点、立ち位置によって、または何処に向けて発信するかにおいても表現が異なるように感じる。歴史的な京都そのものや今ここにある現代の京都をリアルに表現しても難解になって伝わらない。その組み合わせや表現手法によっては、全く大陸的な表現になってしまうこともある。立礼式茶席が生まれた過程の様に、ただ、伝統の型を押し付けるだけではなく、相手の良き様に振り舞いながら自身の文化を伝えていく事も未来の京都建築には必要である。

リッツカールトンホテル京都は、近代洋風建築様式との折衷の過程において共通言語を使ってその神秘的な京都の情緒や風情をわかりやすく表現する事で、より国際的なグローバルデザインとして昇華し、京都を訪れる新しい観光客誘致の間口を広げた功績は大きい。(辻村久信)



最優秀賞

## ザ・リッツ・カールトン京都

設計者：大谷弘明（株）日建設計

所在地／京都市中京区

竣工／2013年11月

敷地面積／5,937.28㎡

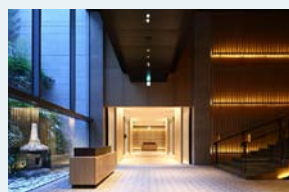
建築面積／4,598.23㎡

延床面積／24,682.89㎡

構造規模／鉄筋コンクリート造

一部鉄骨鉄筋コンクリート造

地上4階 地下3階建





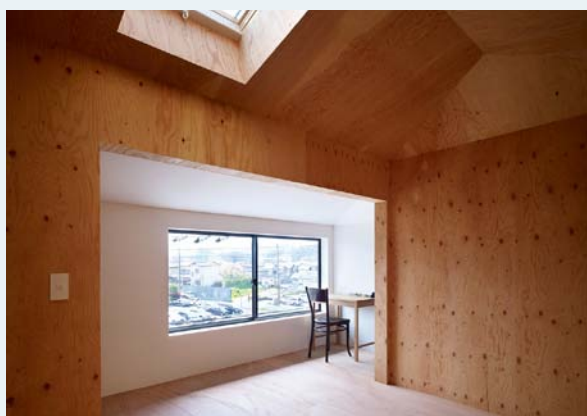
【講評】  
京都市北部の新興住宅地に位置し、一帯は風致地区に指定されているとはいえ、歴史的な景観があるわけでもなく、調和のとれた街並みが形成されているとも言いがたい。そのような敷地であって、奇を衒った自己主張をするのでもなく、かといって、いわゆる「京都らしさ」に阿るのでもなく、風致地区の意匠基準に拠りつつも、的確なディテールのもとミニマルに構成された外観にまずは目を惹かれる。そして内部では一転、内外の多様な開口部に彩られた一室的空間が耐震コアを巡って伸びやかに展開することに虚をつかれる。さらに特筆すべきは隣地との関係である。南側隣地では施主も設計者も異なる住宅の新築計画がほぼ同時期に進められたとのこと。庭の一体化以外は意図的に調整したものでないというが、設計段階から互いの計画を意識しあうことで、配置やデザインにおいて企まざる関係性が生み出されている。連歌的ともいえる緩やかな関係性の連鎖が新しい街並みをつくっていく。その起点となるようなプロトタイプ性さえ感じられた。（文山達昭）

優秀賞

## BELLY HOUSE

設計者：畑 友洋  
畑友洋建築設計事務所

所在地／京都市左京区  
竣工／2010年3月  
敷地面積／108.26㎡  
建築面積／43.12㎡  
延床面積／122.78㎡  
構造規模／木造一部RC造（地階）  
地上3階 地下1階建



## 奨励賞 方形ハウス

設計者：坂井隆夫  
坂井隆夫建築設計事務所

所在地／京都市左京区  
竣工／2014年10月  
敷地面積／138.97㎡  
建築面積／46.54㎡  
延床面積／111.14㎡  
構造規模／木造  
地上2階  
地下1階建



【講評】  
東山麓の斜面地に建つこの住宅は、焼杉の外装に無垢材の内装の光にあふれた清々しい建築である。4・53m角の方形屋根のヴォリュームを雁行させ敷地形状になじませながら二つのボリュームのスリット部に階段を仕込み、一階に水回り・倉庫・寝室などのプライベートな部屋を、二・三階にリビング・ダイニング・客室等のオープンな部屋を配置し、また各階道路側にはものの空間。それに対して奥側にはシンプルな空間をと機能と空間のゾーニングを明快におこなっている。南庭につながる気持ちのよいバルコニーに設けられた大開口は室内と静かな自然環境を結びつけ、空に視線をつなげる縦長の開口や欄間状の開口が面積以上に空間を広く豊かに感じさせてくれる。スリット部天井の材質、中央階段のデザイン、手すり等安全への配慮などが少し気になったものの、クライアントとのしっかりとれた対話が重ねられている様子であり、家族や状況の変化に応じてさらに対応が行われ、記憶が重ねられる家になることを期待したい。（櫻井 潔）



## 奨励賞 篋

設計者：森田一弥  
森田一弥建築設計事務所

所在地／京都市東山区  
竣工／2014年11月  
延床面積／24.70㎡



【講評】  
京都で竹や木のものづくりを行っている会社の直営店舗。竹という一つの素材に特化して、空間を構成する面白みと職人の技を充分に感じさせる空間である。細く割った竹を一定の間隔で配置して格子を制作し、硝子の裏表に二重に設置することによって、単調になりがちな店舗の壁面にうっすらと陰影を創り出している。竹による「線」の表現と、土・金属による「面」のバランスもほどよく、立体感と奥行きのある構成となっている。審査会では、京都建築賞の対象として、この作品が「建築」なのか「インスタレーション」なのかという議論も展開されたが、領域や概念で固めることなく、京都における建築の更なる発展と継承に資すること無く、市に広い作品を対象にすることを再確認し、受賞に至った。来年度の審査会でも広い視野で作品を募集し、優れた発想や理念から生まれる作品を期待したい。（堀木エリ子）

